

2009 年度活断層学会学会賞

授賞者： 太田陽子

授賞理由：

太田陽子会員は、1960 年代以降の日本における変動地形研究の発展・充実期に、活褶曲・活断層・海成段丘調査の中核に位置し続け、絶えずリードしてきた。特に、海成段丘の高度分布をもとにした最終間氷期以降の広域地殻変動と地震性地殻変動に関する研究を国内外で積極的に行い、その成果は国際的に高く評価されている。また、1960 年代の信濃川沿岸の活褶曲調査を端緒として、その後の日本海東縁ひずみ集中帯での活断層調査を継続し、本地域での変動地形学的研究を進展させた。1970 年代後半から開始されたトレンチ掘削調査には初期から中心メンバーとして参加し、糸魚川-静岡構造線・三浦半島・十日町盆地・庄内平野東縁等における活断層調査で大きな成果を上げ、古地震研究の基礎作りと発展に貢献した。地震断層調査においては、1995 年兵庫県南部地震を皮切りに、1999 年台湾集集地震を旺盛に調査し、マスコミへ積極的に発言して活断層研究とその重要性を広く社会に認識・普及させた。また、多くの後輩研究者との共同研究を組織し、所属を超えて活断層研究者を長年にわたり育成し続けてきた。